

京都保健衛生専門学校
平成30年度 事業計画

A 職員人事

1 平成30年度教職員名簿

◇校 長(1名)(兼務健康管理医1名) 有 菌 直 樹					
◇事 務 所 事務局長(1名) 佐 藤 眞喜子					
事務職員(若干名)					
事務次長	磯 田 典 子	事務主任	衣 川 美 佳		
教務担当	上 坂 幹 子	経理担当	井 越 みちよ		
教務担当	山 内 奈津子				
◇看 護 学 科 副校長(1名)					
教務部長(1名) 谷本 千亜紀					
実習調整者1名/専任教員8名以上					
<三 年 課 程>					
教務主任 (兼務)	谷 本 千亜紀	副教務主任 実習調整者	上 野 佳 穂		
教 員	池 田 美 晶	教 員	新 納 浩 司	教 員	藤 澤 玉 美
教 員	内 田 洋 子	教 員	鍋 島 純 子		
教 員	大 井 ゆかり	教 員	姫 井 智 子		
教 員	川 勝 真由美	教 員	姫 田 真 弓		
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 副校長(1名)					
◇臨床検査学科・臨床工学技士専攻科 教務部長(1名) 小 澤 優					
<第一臨床検査学科>		<第二臨床検査学科>		<臨床工学技士専攻科>	
教務主任 (1名)	小 西 靖 志	教務主任 (1名)	小 澤 優 (兼務)	教務主任 (1名)	泉 田 洋 志
(教員は2学科を兼務)(7名以上)				(3名以上)	
教 員	・ 本 久 子	教 員	中 前 雅 美	教 員	飯 田 安 彦
教 員	五十川 團 哉	教 員	林 敬 子	教 員	関 本 崇
教 員	木 澤 明 宣	教 員	前 川 由起子	教 員	多 田 俊 介
教 員	後 藤 直 樹	教 員	宮 野 亘		
教 員	相 良 郁 夫				

2 各種委員会担当者一覧

委 員 会 名	看護学科三年 課程	臨床検査学科	臨床工学技士 専攻科	事務所
防火委員会	藤 澤	宮 野	飯 田	衣 川
新聞委員会	姫 田	小 西	関 本	*佐 藤 衣 川
学校祭準備委員会	川 勝	* 林	多 田	山 内
体育祭委員会	*新 納	五十川	飯 田	上 坂
まちの保健室委員会	上 野	*後 藤	泉 田	磯 田

福利厚生委員会	鍋 島	林	関 本	*井 越
---------	-----	---	-----	------

(注) *印は委員長

B 学生在籍状況及び担任一覧

区 分	学年/期生	在籍数	教室番号	担 任	
看護学科三年課程	1年/40期	41	302	新 納	大 井
	2年/39期	48	305	内 田	川 勝 藤 澤
	3年/38期	38	303	姫 田	鍋 島
	計	127			
第一臨床検査学科	1年/46期	35	101	林	木 澤
	2年/45期	37	102	中 前	
	3年/44期	50	103	小 西	前 川
	計	122			
第二臨床検査学科	1年/46期	27	101	相 良	
	2年/45期	20	102	中 前	木 澤
	3年/44期	32	201	五十川	
	4年/43期	43	202	相 良	
	計	122			
臨床工学技士専攻科	20期	23	203	飯 田	関 本
合 計		388			

C 事業計画目標

目 標:「選ばれる学校作り」

看護大学の台頭、18歳人口の減少など学生募集の環境は非常に厳しく、受験生から「選ばれる学校づくり」を目指していきたいと思う。学校の理念である「心豊かな医療人の育成」を念頭に学校教育の充実をはかることが大きな目標である。

本校は、学校案内の通り就職の確かさ、充実の経済支援、チーム医療体験を学校の特徴として出している。就職については求人数以上の求職数があること、また、それぞれの学科に奨学金制度があること、そして学内でのチーム医療を経験することによって実践力のある卒業生輩出に力を入れている。実践力を付けるために本校では教材の充実を常に心がけており、現場に近い形で実習機材を揃えている。

学生たちは自分で掲げた自己目標の達成を目指し、厳しい指導を受けているがその中で明るく、のびのびとした学生生活を送っており、オープンスクールに来た受験生の本校を選んだ理由の第一位は「学校の雰囲気良かった」である。学生同士、教員と学生の関係が良好であることが大きな特徴である。このような学校生活を経たのち卒業した学生を、さすがに本校の卒業生はここが違うと言われるような人材に育成していきたい。

1. 在学生の満足度向上

在校生の満足度を向上させることは、充実した学生生活を過ごし、それによってより教育的効果が高上が期待される。

○積極的な学科間交流

学科間交流については学校行事だけではなく、全入学生対象のオリエンテーションを合同で行って

いる。授業に関しては看護学科教員が体位変換・移乗の技術の演習を臨床検査学科の学生に行い、臨床検査学科教員が心電図検査についての講義・実習を看護学科学生に行い、同様に臨床工学技士専攻科の学生に看護学科及び検査学科の教員が授業し、各学科の教員が学生の授業を通して交流を図っている。また、学生同士が交流し合える機会として「チーム医療セミナー」を全学科学生を対象として放課後の時間を使い学習会を実施する。それぞれの職業紹介をし合いながら設定されたテーマについて各学科から意見を出し合ったり、技術を共有している。今後のチーム医療に向けて有意義な時間が持てている。

○基礎学力向上のための取組み

現在の高校での理科系の授業は、基礎の授業になっていることが多く、本校に入学して来る学生のほとんどが、理系分野の基礎学力が低下している傾向にある。しかし、看護師、臨床検査技師になるためには生物や化学の基礎の学力は必須であるため、入学初めの時期に放課後等を利用した全学科学生対象にリメディアル教育(補習授業)を実施している。また推薦入学試験後入学までの時間が長いため入学前学習について紹介している。入学前の事前学習をよりきめ細やかに行えるよう取り組んでいく。

○就職ガイダンス

学生が就職を決めるにあたって、就職ガイダンスを実施している。各施設の方々と学生とが直接面談する形式で実施している。看護学科においては、1年生から3年生まで全学生を対象とし、京都私立病院協会会員病院からの奨学金のことも含めて就職ガイダンスとしている。

臨床検査学科と臨床工学技士専攻科においては、卒業予定の学生を対象とし京都私立病院協会加盟病院と衛生検査所や企業の方々と学生との直接面談による就職ガイダンスである。臨床検査学科では衛生検査所や健診センターの方には別の日を設定し学生との相談会を実施している。

○学生相談室におけるカウンセリングの充実

臨床心理士の先生にカウンセリングを依頼し、悩みをかかえている学生たちが気軽に相談できる学生相談室を実施している。

○サークル活動支援

学生の余暇利用への支援として、サークル活動を学校が支援している。活動場所の提供や活動援助金を助成している。

○アメニティの段階的な向上

30年度は昨年に引き続き学生の机と椅子の交換を予定している。

2. 学生募集計画

現在、大学生の就職内定率は2017年4月1日発表では97.6%で前年同日0.3ポイント高くなっている。また高校生の就職内定率は98.0%、前年より0.3ポイント上昇である。専門学校においては、就職内定率はほぼ100%であり学生募集活動の大きな力となっている。

また、看護大学との差別化を図るため、専門学校は職業人の育成であり、「実践力がついた卒業生」「人間的に成長した卒業生」というキャッチフレーズを、全面に出していきたいと考えている。

○入学試験の改革

2018年度生は受験生の減少が起き、約116人減っている。また京都橘大学臨床検査学科開設による影響もあり臨床検査学科では定員割れとなった。高校生の減少により、今後いかに受験生を増すかという問題はなかなか解決策が見つからないが、入学生の質を一定の水準で保てるよう入学試験制度を改革しながら実施していく。

○見学会および説明会

①オープンスクール

オープンスクールは、在校生が受験生に直接学生生活全般について説明する機会と、体験を主体とし実施する。入学試験に関する説明の後、グループごとの実習体験を行う。また、臨床検査学科は実際の職業体験として京都府臨床検査技師会の協力により現場の見学をする。

②学校見学会

学校見学会は、校舎内の見学が中心で入学試験の説明の後、見学をする。29年度より事前の申し込みを不要としたことにより、学校全体の見学という捉え方をして、まず全体の説明をしたうえで、3学科を全部見たり、体験したりできるようにスタイルを変更する。また、各月のキャッチフレーズを考える。たとえば9月頃なら「推薦入試直前対策見学会」など学校見学会に意味を持たせるようにしていく。

③再進学者説明会

大学や短期大学を卒業後、再度専門学校へ入学を希望する人や、社会人として何年か働いたのち専門学校へ入学を希望する人達向けの説明会である。
実施時間を午後6時からとしている。

○学校訪問

京都の高校訪問と地方の高校への訪問を継続していきたい。近郊の高校へは何度も訪問することや地方の高校へは毎年訪問することが学校との信頼関係を作るには重要なこととなる。

○臨床検査学科の学生募集活動

臨床検査学科の学生募集については重点的に取り組んでいく必要が出てきた。京都橘大学に臨床検査技師育成コースができたことにより受験生の確保が難しくなってくる。本校の特徴をはっきりと示すようにし大学との違いを明確にする必要があると思われる。

○臨床工学技士専攻科の学生募集活動

臨床工学技士専攻科は毎年受験生確保に苦慮している。崇城大学との連携校入学試験が始まり30年度生は5人が入学予定である。指定校からの確保や臨床検査技師専門学校への説明会などを実施している。また本校卒業生からの入学が年々減少しており、今後内部進学者への取り組みも含め今後の方針を立て定員確保を目指していく。

3. 学生への啓発運動

今年度より以下の3点について学生啓発運動に力を入れていく。

①禁煙活動

本校では平成15年5月健康増進法の施行を受け、同年8月より学内を全面禁煙、また学校周辺地区も全面禁煙で進めてきた。また、「NPO法人京都禁煙推進研究会」に加盟し、新入生の禁煙教育、各学年ごとの禁煙教育をしている。今年度はなお一層の禁煙教育をすすめていきたい。

②危険ドラッグ乱用防止

危険ドラッグ防止啓発運動について京都府より防止指導員の推薦や学生啓発リーダーなどを推薦している。平成29年度より新納教員(看護学科専任教員)が活動している。学生向け講義を上京警察よりDVDを借りて行っている。

③情報リテラシー(適切な活用)教育

スマートフォンやタブレット端末の普及により、学生がネットトラブルに巻き込まれることやまた、学生自身が発信した情報が有害である場合もあり、今後情報リテラシー(適切な活用)について教育していく。

4. 地域への貢献

地域社会に情報を発信したり、地域社会への貢献を広めたりすることで、学生募集につなげたい。市民公開講座は7月と11月に講演会を計画している。集客の点で苦労はあるが、徐々に学校での市民講座の認知度も上がってきている。

5. 教職員の満足度向上

学生の満足度向上と同じく教職員の満足度向上も必要になってきている。本校のような小規模の学校では、教員は学生への対応だけでなく、事務業務をすべて行いながら授業準備、実習指導と多種多様な業務をしなければならない。そのような状態の中で、教員の疲弊感が大きくなりがちである。また、学生の学力低下により教員への負担が大きいことや実力の上がない学生への対応が大きくなっていることなども疲弊感が大きくなる要因でもある。今後は、その解消に努めることが必要である。まず、全体業務の整理、また、学内研修会や意見交換会など、今後仕事をしていく上で満足度が向上するよう取り組んでいきたい。

6. 学校自己評価への取組

学生たちの教育達成度の公開が必要になっている。専門学校であるので1人1人の学生がどこまで技術を修得しているかということを開示することが重要である。また、2月の文部科学省高等教育局人生100年時代構想推進プロジェクトチームのアンケート調査により、シラバスの公開について取り組んでいく。

1 教育実践計画

【教育目的】

知識と理論に裏付けられた看護実践能力の基礎を身につけ、社会の変化に関心を持ち、自らを変革させながら、保健・医療・福祉に貢献できる人材を育成する。

【教育目標】

1. 人々の健康と生活を幅広い視野と自然・社会・文化的環境の相互作用の観点から理解できる。
2. 知識と理論に裏づけされた看護実践能力の基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの中で協働しながら看護専門職としての役割を遂行できる能力を養う。
4. 看護専門職として必要な倫理的感性と責任感が持てる。
5. 生涯にわたり自ら探求する自己学習能力を身につける。

昨年度は、早期から学習習慣・学習方法が確立できるように小集団指導や反復学習を取り入れた。しかし、学生の学力格差の開きは大きく、学ぶことが困難になっている学生への支援が今年度も課題である。

今年度は、カリキュラム改正が目前に迫ってきているため、カリキュラム検討会を立ち上げ、カリキュラム評価と教育課程開発の土台作りを実施する。また、課題に取り組むためには、教員がお互いを尊重し合い、前向きでアサーティブなコミュニケーションを心がける。

1) 活用できる知識の定着を促し、国家試験合格へつなげる

- ・ 学生が学習習慣をもち、効果的な学習方法が獲得できるよう小集団指導を実施する
- ・ 1年次から問題集を活用し、基礎的問題や必修問題を反復学習し、基礎知識の定着を促す
- ・ 学習上の課題解決方法をともに考え、学生の主体的学習を支援する

2) 教員の教育実践力の強化する

- ・ 研修会・学会参加を奨励する
- ・ 指導者研修会を開催する
- ・ 教育課題を共有し、解決策を共に見出す

3) 将来の看護職をめざした受験生の獲得をする

- ・ 学外PR活動に積極的に参加し、他学科を含めた本学科の特徴をアピールする
- ・ 受験生の動向や入学試験結果を分析し、入学試験の課題を明確にして取り組む

4) 教育課程開発に向けての取り組みを行う

- ・ カリキュラム検討会を立ち上げ、教育課程開発の計画を立案する
- ・ 現行カリキュラムの評価を行う

臨床検査学科

本校の学生は、「医療に携わりたい」、「患者の役に立ちたい」という気持ちを強く持って入学してくる。彼らの思いに応えるべく、臨床検査学という専門的な知識と技術の習得と、医療人としての心を教育し、社会に役立つ臨床検査技師を育成する。また、臨床検査に関わる自動機器やAI技術が進歩する中、卒業後も長く現場で活躍できる臨床検査技師教育を視野に入れなければいけない。チーム医療に積極的に参加し、病院臨床検査室の既成概念から脱却し病棟臨床検査業務や在宅臨床検査業務、また、認知症領域臨床検査でも活躍できる人材育成を目指す。学生募集の観点では、日本の少子化時代に輪をかけて、臨床検査技師養成大学の設立が京都・大阪でも加速度的に進み、本科の入学生確保は大変困難な時代に入った。今までと同じことをしては学科・学校運営が危ういことを職員全員が理解し、各学科・各教職員が協同行動をとれるよう努力する。

「心豊かな医療人の育成」

1 学科教育方針

「知識、技術、心の調和のとれた教育を実践する」

2 学科教育目標

- ① 臨床検査技師国家試験の合格に十分な基礎学力を養う
- ② 医療に貢献できる技術を養う
- ③ 医療人として備えるべき心を養う

3 具体的教育目標と行動

【第一臨床検査学科・第二臨床検査学科】

- ① 知識・技術の定着を図るため、従来からの教科書・ノートに加え、学生個々に iPad を所有させ、多彩な学習資料・学習環境を提供する
- ② 生理機能検査学では、心電図検査と超音波検査を重点項目として教育する
- ③ 輸血検査学では、血液型判定、交差適合試験を重点項目として教育する
- ④ 形態検査学では、各項目とも基本の操作と知識を重点的に教育する
- ⑤ 検査データの解釈について、各科目の共通目標として教育する
- ⑥ 臨床検査技師に必要な医用工学の基礎知識を教育し、また、臨床工学技士とのダブルライセンスを目指す学生には、第2種ME技術実力検定試験合格に向けた補講をおこなう
- ⑦ 医療人として備えるべき常識や心を養える教養科目や特別講義、学外学習を計画する

4 学生募集活動

- ① 京都・滋賀・奈良・大阪と山陰地方は鳥取を中心に高校訪問と会場形式進路相談会に参加する
- ② 参加者の満足度の高いオープンスクールを模索し開催する
- ③ 企業の学生奨学金制度を高校進路部、就職担当者へ伝える
- ④ 大学キャリアセンターや進学予備校を訪問し臨床検査の紹介をする
- ⑤ 臨床検査技師会との協力体制を継続・維持する
- ⑥ 本校看護学科受験生の第二志望として臨床検査学科受験を受け入れる

臨床工学技士専攻科

近年、医療機器の多様化・高度化に伴い、その操作や管理業務に必要とされる知識・技術の専門性が高まっている。そして医療技術の発展とともに、臨床工学技士の業務内容はますます充実し、需要も増加する傾向が見られる。当科ではこのことを踏まえ、高い専門的な知識や技術を習得し、臨床の現場で活躍できる医療人の育成を目標とする。

1 教育方針

医療資格養成校出身者と理工学系大学出身者の特徴を尊重し、各々の専門性を活かしながらキャリア形成ができる環境を提供し、チーム医療に貢献できる人材育成に努める。

2 教育目標

- 1) 基礎学力をしっかり固めてから専門知識を習得して国家試験合格を目指す。
- 2) チーム医療の重要性を理解させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 3) 医療や社会的情勢に興味・関心をもたせ、探究心を育む。

3 教育計画

- 1) 臨床工学技士として必要な医療・工学科目の基礎を理解させる。
併せて病院見学や日本臨床工学会等に参加して医療現場における役割や業務の概要を学ばせる。
- 2) 臨床実習で実際の業務を学び、臨床工学技士としての心構えを身に付けさせる。
- 3) 第2種ME技術実力検定試験を受験して医療機器の知識や技術の向上を図る。
- 4) 国家試験対策の学習指導を行う。

4 学生募集

1) 指定校(崇城大学)との連携体制の充実

大学4年次に本校で1年間学び、大学卒業(本校卒業)と同時に臨床工学技士免許取得を可能としたダブルスクールによる連携教育であり、長期的な定員確保に向けて取り組んでいく。連携教育3年目となる今年度はより多くの学生を受け入れるためにも募集活動をはじめ、教育内容と指導内容の強化を図る。

2) 大学・専門学校訪問による募集活動

理工系大学や他の医療系養成校への訪問により受験者数増加を図る。

3) 内部進学希望者の増加に向けての活動

臨床検査学科の学生等を対象とした内部進学希望者向けの学内オープンスクールを開催してもっと身近に臨床工学技士について知ってもらう機会を設ける。そして1年間でダブルライセンスの取得やスキルアップの向上を目指すことで、医療人として様々な進路選択が得られることを知ってもらう。

事務局

学校目標の「選ばれる学校作り」を意識して、事務局の運営をしていきたい。学生の満足度向上や地域への貢献に取り組むことにより、より多くの学生確保へつなげたい。

1. 学生募集関係

学校案内と学生募集要項の更新

学校案内と学生募集要項は前年度より取り組んでいる内容であり、2019年度生用の学校案内は5月完成を目指している。2018年度生用の学校案内で新しい取り組みをしたので2019年度生用は内容の更新となっている。

2019年度生用募集要項は、2018年度生の応募者が減少したことにより、できる限り多くの応募者が応募できるよう内容を大きく変更した。2020年度生用についてはさらに問題点がないかを検証していく。

2. 地域への貢献

まちの保健室への取り組みは、企画段階から広報活動、当日の実施と幅広い範囲で実施している。広報活動については、より多くの方に参加してもらえよう、町内へのビラ配りの範囲を広げたり、京都新聞への掲載などタイムリーな対応を行っている。今年度もできる限り参加者の希望にそえるようにしていきたい。

3. アメニティの段階的向上

昨年度より最高学年から順に学生用机と椅子の更新を進めている。2018年度は2年生の教室分を更新する予定である。

4. 財政の健全な運営

今年度は在校生の数が少なく収入面で非常に苦しい状態となる。従って支出面をどのように切り詰めていくが課題となる。できる限り無駄を省き支出面を抑えられるよう努力する。2017年度内より教職員に協力を求めている。

E 学校事業計画

【学校全体】

月	項目	内容
4	入学式(11)	京都アスニー
5	ツベルクリン反応検査(7・9) 学校見学会(26)	

6	体育祭(1) 高校教員向け説明会週間(12~15) オープンスクール(16) 就職ガイダンス(29) 市民公開講座(30)	島津アリーナ京都
7	創立記念日(1)・代休(2) オープンスクール(21)	
8	学校見学会(1) オープンスクール(25)	
9	高校教員向け説明会週間(18~21) 学校見学会(22)	
10	オープンスクール(13) 市民公開講座(17) 防火訓練(24) 学校祭・学校見学会(27)	
11		
12	仕事納め(28)	
1	仕事始め(7) 学校見学会(12)	
2	学校見学会(16) 第108回看護師国家試験(17予定) 第65回臨床検査技師国家試験(20予定) 卒業認定会議(21)	
3	第32臨床工学技士国家試験(3予定) 卒業式(13予定) 学校見学会(23) 看護単位認定会議(26) 検査進級認定会議(26)	京都アスニー